

熊本県の新明保育園様へ訪問した際、榎園長先生や前田主任先生から「見守る保育を実践しようとした時、子どもたちへの負担は勿論、職員に対しても何が大切でやっていくのか、意図性をしっかりと見つめて共通意識をもってやっていきたい。要求しすぎて無理をさせたくない。支えてくれている職員のお陰で、どう気持ちがあれば、一人一人に寄り添うこともできる。時代の変化は物だけではなく人の力まで変わっていく様があり、そんな時だからこそ一人一人の力を寄り添っていかなければ感じている。見守る心があれば、お話をあり、改めてその「見守り」の大さを感じました。

ややもすると「前よりもっとよくしなければ」と考えてまいがちですが、職員を大切



子どもたちのふるさとになる保育園を目指していることがホームページからもしっかりと伝わってきます！

見守る生き方

熊本県の新明保育園様へ訪問した際、榎園長先生や前田主任先生から「見守る保育を実践しようとした時、子どもたちへの負担は勿論、職員に対しても何が大切でやっていくのか、意図性をしっかりと見つめて共通意識をもってやっていきたい。要求しすぎて無理をさせたくない。支えてくれている職員のお陰で、どう気持ちがあれば、一人一人に寄り添うこともできる。時代の変化は物だけではなく人の力まで変わっていく様があり、そんな時だからこそ一人一人の力を寄り添っていかなければ感じている。見守る心があれば、お話をあり、改めてその「見守り」の大さを感じました。

「子どもを信じて寄り添い見守ろう」と皆で保育をされる中で、それと同じく職員や地域の方を信じて寄り添い見守る姿に、「見守る」は保育方法ではなく、生き方なのだと教えて頂いたように思います。私たちもそんな「見守る生き方」を大事にして、お客様や子どもたちへと繋いでいたらと感じています。

熊本県の新明保育園様へ訪問した際、榎園長先生や前田主任先生から「見守る保育を実践しようとした時、子どもたちへの負担は勿論、職員に対しても何が大切でやっていくのか、意図性をしっかりと見つめて共通意識をもってやっていきたい。要求しすぎて無理をさせたくない。支えてくれ

に尊重しながら、どんな年も無理せず良い年に変えてゆく謙虚な心や、何かと比較しないもの」を求めるのではなく、「今与えて頂いているもの」の価値に気付ける心と感謝の心は、何より理念である「子どもたちのふるさと」に繋がっているようでした。

東京都新宿区にあります、新宿こだま保育園様へお伺いしました。

石田園長とお話をしていると、「円対話」などを通じて「聴く文化づくり」を行ってきましたこの3年で、本当に見違えるように職員や子どもの姿が変わってきたそうです。

「昔はこうなってほしいとずっと願って、でも伝えてても中々そうならなかつたものが、今は全体会議を見ていって、仲間の声を引き出す場面をたくさん見ることが出来て、聴くという力がこんなにもついたんだだと実感しています。その他にも、何かクラスで問題があった時に、聴福人（※）を体験している人がクラスにいると、自然とおさまることが増えたり、給食の先生が聴福人になつたら、いつもいろんなところに入ルブに入り、すぐく保育と一緒に近づいて、理想的な給食と



(※)聴福人は、チームの風通しをよくし、皆が安心して楽しく協力して働けるように相手に寄り添って聴くことを大切にしている人です。

現場の距離になってきたんですね」と仰っています。

保育経験の少ない給食の先生などが現場に入ることは大変なことが多いと思いますが、その先生のぎこちない授乳がかえつて皆の笑いを誘い、素敵な空気を作ることもあるそうです。

「給食」や「保育士」、「看護」といった職域に囚われずに、皆が皆でお互いに入れ替わり、助け合う文化はまさに「チーム保育」。聴くことが協力に繋がるからこそ、お互いの仕事を「シャッフル」できる柔軟な働き方を大切にしていきたいと思います。

毎年行われているギビングツリー（以下、G.T.）関東大会は今回で6回目を迎えました。北は宮城県、南は沖縄県から、総勢130名を超える先生方が研修会に参加されました。G.T.関東大会は、北関東・埼玉・東京・神奈川のブロックで構成され、年に一度実施し毎年開催地を移動していく

す。

今回は5つのプログラム①保育所保育指針の改定、②書類改革、③せいがチャンネル、④情緒的利用可能性、⑤まとめ」が行われました。研修では、保育所保育指針の解説からはじまり、園での書類や保護者への発信についての具体的な方法。そして、最新の知見からの考え方。最後のまとめでG.T.代表の藤森先生（新宿せいが子ども園園長）は、「保育所保育指針の改



今年は東京での開催となりました。来年は神奈川での実施予定です。

竹取新聞

株式会社 カグヤ
東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビルディング
2号館階



第101版

理念と実践で 絆を結びます

平素より弊社の商品をご愛顧頂きましてありがとうございます。この新聞は、「子ども第一主義」の理念のもとに活動しているカグヤグループの出来事・内省を発信することで、皆様の保育に少しでもお役に立てればと始めたものです。記事中はそのまま実践を表現することを優先し、乱筆乱文で恐れ入りますが、何卒ご容赦くださいますようよろしくお願ひいたします。

学びの深まり

訂内容を読んでいくと、非認知力の大切さが書かれているものの、どういう保育をしたら非認知力が身に付くのかがイメージしづらい。私たちは日々保育をする中で、どういう保育だったら、そういう力が身に付くのかを私は提案したいと思っています」と仰られました。

現場で保育を取り組み、その学びを共有し合える園同士の関係が年々増しているように感じます。私たちもその学びを少しでも発信していくないと感じました。セミナーの講演録にご興味がある方は、カグヤサイトからご覧頂けます。

CCN

Caguya Company News

カグヤニュース



こちらがサンキュークリー。枝が傾くほどのお手紙です。



いつも有難いお言葉をありがとうございます♪

社内には、お客様やご縁のあつた方から頂いた手紙や写真が飾られている「サンキュークリー」と呼ばれる木があります。中には子どもたちからの手紙もあり、優しさや懐かしさを感じるスペースとなっていますが、頂いた手紙が何年分も集まり重なると少しごちゃごちやてしまい、なんだかサンキューな感じが改めて心に響きました。

こうして社内の環境を見直すことは新しい発見もありますが、隠れていたものを見直す楽しさを感じられるようになっていました。頂いたままになつていて感謝の種から芽が出るよ、水をあげ続けていきたいと思います。

例えば、私たちの会社は「子ども第一義」という理念を掲げています。これは子どもが憧れるような働き方や生き方を実践すること、また子どもの心を守り魂を磨き続けます。

編集後記

今年も一年ありがとうございました。来年も素晴らしい年になりますよう心よりお祈り申します。善き新年をお迎えください。

※カグヤでは、クルー同士別々の場所にいても、互いの気持ちや様子が共有できるよう、「カグヤニュース」という社内報を毎日メール配信しています。ここでは、その中から一部を抜粋して、日々の実践をご紹介いたします。

一宿一飯の恩

10月末に福岡の古民家「聴福庵」を訪れた時のことです。普段はここで寝泊まりをするのですが、スケジュールの都合により日によっては近くの会長宅に泊まさせていただきました。そんなある日、朝起きると仲間から「宿飯の恩返しをしよう」という素敵な提案が!聴福庵でも宿泊された方には宿泊代ではなく「掃除」をして帰つてくださいいますが、同じように会長宅にお世話になった分、何か自分たちの出来ることでお返しをしようとする仲間

の声掛けは、まさに生き方からの行いであり見習いたい姿勢だと感じました。実際にお借りした車やお宅の玄関の掃除をみると、その手軽さや清々しさが感じられ「掃除」の奥深さを味わう機会になりました。掃除で人の心が穏やかになるのは、お世話になっていることに対する感謝の心からの御恩返し、そしてこれから無事を願う祈りのようないだらなのだと思えます。古民家の「磨き」や「手入れ」の実践を日頃に活かし、ちょっとの掃除や手入れを大切にしていきたいと思います。

毎年、福岡のカグヤ農園では高菜漬けにする高菜を作っていますが、今年はその高菜が大ピンチ! 芋虫が大量発生しました。自然農の先生曰く「畑がうまくいかないのは自分の手が足りないから。ちゃんと心を留め置き、手をかけてやる。そうすれば作物は自分で育つ」と…。そこで早速、芋虫を割り箸で取り除き、むしゃった雑草で高菜の根本を覆っていきます。こうすると土が発酵し、栄養も豊富になって作物が元気になるそうです。



虫食いだらけの高菜の無残な姿に心が痛みます。
高菜の根元を草で覆ったらあとは信じて復活を待つ!!

心試される自然農

根元からじつり食べ尽くされてしまつた高菜にも、その生命力を感じ、祈る気持ちで手をかけていきます。すると次第に信じる心は強固になり、大きく育つた高菜が楽しみに…。

見守ることは信じること。それを高菜が身もつて教示してくれた気がしました。

一期一会庵

「理念＝経営」

どのような集団や組織でも、何らかの目的をもつて共に働くこととなるときそこには「何のためにそれをやるのか」という目的的確認が必要になります。特に細かく指示命令しきりに何かをやらせるのではなく、それが自らの意思で主体的に協力して取り組むような場合はその確認こそが最重要になります。もしもこれらを意り個々が「何のためにやるのか」の目的を無視し、本質や意味を分からぬままに思い込みで動いたら空に働くクルーたちも日々にやつていることの幅の広さに当惑することもありますがそのどれも理念から取り組んでいる大切な事業です。

よく世間では理念が経営かと選択する人がいますが、実際は「理念＝経営」であり「働き方＝生き方」ですから、理念の共有はみんなの協力を引き出すための経営の要諦とも言えます。引き続き、私たちは「理念＝経営」を実践しながら主体的にみんなが活き活きと楽しんで、手紙に込められた素敵なお言葉たちを社内を明るくしてくれます♪この作業をするために一枚一枚手に取ることで、手紙に込められた素敵なお言葉たちが改めて心に響きました。

カグヤは「子ども第一義」の理念を実践し、お客様の発展と自立に貢献していきます